牟呂八幡宮神幸祭の祭具である鉄鉾の^{14}C 年代測定

AMS ^{14}C dating of the iron swords as ritualistic implements used in MURO HATIMAN SHRINE

牟呂八幡宮神幸祭神事相撲保存会　　豊橋市牟呂町字郷社１　牟呂八幡宮社務所内
http:www.murohachiman.com/
Correspondence author.E-mail:bhzbmq07@sf.commufa.jp
キーワード：4 本の鉄鉾；加速器質量分析による^{14}C 年代測定；相撲神事;宮座；神幸祭

1　^{14}C 年代測定に至るまでの経緯

牟呂八幡宮神幸祭神事相撲保存会は、平成 22 年 4 月に発足し,相撲神事に関わる文書を中心に調査研究を進め、その中間報告書と文化財指定の申請書を豊橋市文化財保護審議会に提出した。そして、平成 24 年 1 月 31 日付で豊橋市の無形民俗文化財第 3 号として指定を受けた。

中間報告書では相撲神事が明治 4 年には行われていたことを『年中神事式』文書により突き止めることができた。さらに、神事が何時ごろから始まったのか追究するため、現存する 4 つの宮座の記載内容を分析した結果、慶長 7（1602）年には相撲神事が行われていたことが判明した。

しかし、牟呂八幡宮に残る文書による相撲神事の起源追究は、今から約 400 年前の江戸時代初期まで追究できたが、これより時代を遡ることは出来なかった。

2　牟呂八幡宮に伝わる大小 4 本の鉾

牟呂八幡宮には毎年行われる神幸祭の神輿渡御の祭具として用いられる大小 4 本の鉾がある。鉾に関し記述した文書の内、鉾を和紙に直接押し当て写し取った文書が 2 つ現存する。一つは江戸時代後期に、羽田八幡宮神主の羽田野敬雄が大小 2 本の鉾を写し取ったもの。もう 1 つは明治時代前期に牟呂八幡宮神主の森田光文が 4 本の鉾を写し取ったものとがある。この 2 つの文書から、江戸後期に写し取った大小 2 本を「旧鉾」とし、明治初期に写し取った 4 本から、旧鉾の 2 本を除いた大小 2 本を「新鉾」とした。そして、この「新鉾」は何らかの必要性があり、江戸後期から明治初期の間に造られたものと判断した。

3　鉄鉾の^{14}C 年代測定を依頼するにあたって

鉾の製作年代に関して、2 つの文書が現存する。　乃ち、江戸中期に記された『牟呂村由来』と明治初期に書かれた『森田光文のメモ書き』である。前者は、建久 2（1191）年に鶴岡八幡宮より勧請したときに 2 本の鉾がもたらされたと記されている。また後者は、神亀 2（725）年に八幡宮の総社である宇佐神宮より勧請を受けた時に鉾がもたらされたとする。因みに、大きい鉾 2 本には銘があり、「牟呂八幡宮　　神亀 2 年 2 月日」とある。

4　鉄鉾の^{14}C 年代測定結果

4 本の鉾の^{14}C 年代測定結果は、私たちが予想していたものとは大きく異なっていた。まず、江戸時代後期から明治初期に制作されたと思われた『新鉾大』が最も古く、平安末期から鎌倉初期に製鉄された鉾であることが 94～95%以上の probabillty で証明された。牟呂村由来に記された年代が鎌倉初期の建久 2（1191）年であるから、同文書の記述内容の信憑性が高まった（従来、『牟呂村由来』の記述内容は信憑性に乏しいと言われていた）。さらに、この鉾と一対と考えた

『新鉾小』の製鉄年代が最も新しく、鎌倉後期から室町前期であった。而も、その隔たりが 150 年以上もあり、新鉾が大小セットで製作されたことが否定された。また、森田光文が神亀 2（725）年に宇佐神宮からの勧請の時にもたらされたとする説も否定された。何故なら、鉾を製作する鉄が存在していないからである。新鉾に使われた鉄は、これより約 400 年以後に製鉄されたものである。

旧鉾大小に使われた鉄の製鉄年代は重なり合う部分が多く、同時期に製作された可能性がある。

それにしても、古いもので 800 年以上、新しいものでも 500 年以上もの間、脈々と受け継いできた牟呂の人々の心に驚きと敬意を禁じ得ない。

◆名古屋大学宇宙地球環境研究所年代測定研究部より送付された年代測定結果資料（図表のみ）

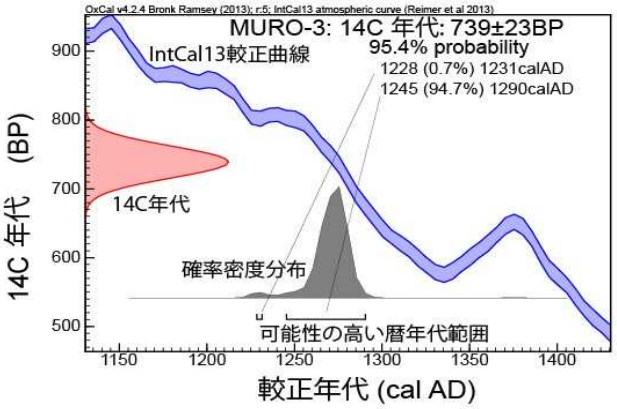

図 1 鉄鉾試料 MURO-3 について得られた ^{14}C 年代の OxCal4.2.4 プログラムによる暦年較正の結果

^{14}C 年代値 739±23BP は、95%の確率で cal AD1228-1231 (0.7%)、cal AD1245-1290 (94.7%)の 2 領域の可能性が示される。

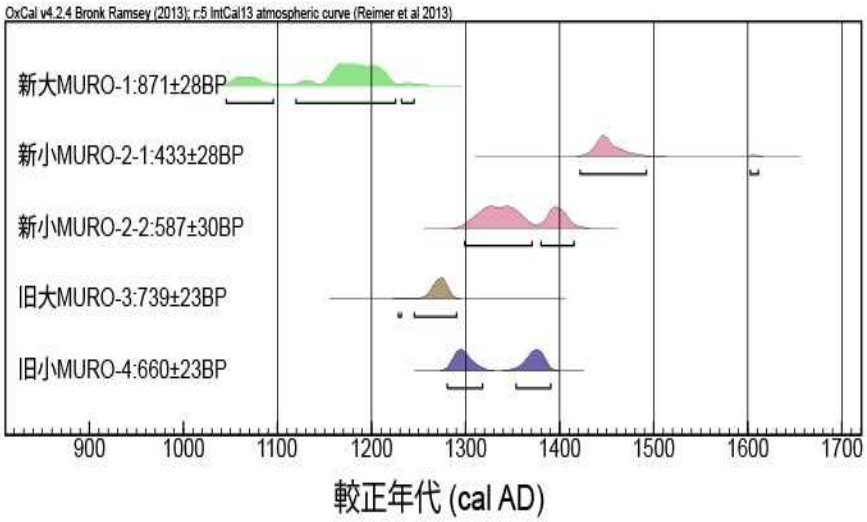

図 2　　鉄鉾試料 4 点の ^{14}C 年代の較正年代

MURO-2 試料については、炭素抽出を 2 回行って、それらを独立に測定した。

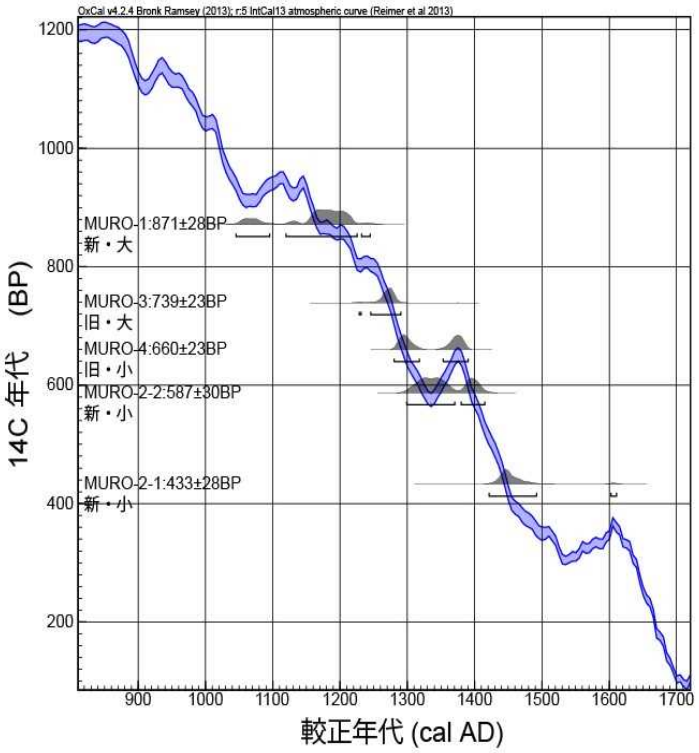

図 3　　鉄鉾試料 4 点の $_{14}$C 年代と IntCal13 較正データセットとの関連図

IntCal13 較正データセットの凸凹に応じて、可能性の高い暦年代範囲が複数の領域にまたがることが示される。

表1 愛知県豊橋市牟呂八幡神社所有の鉄鉾の14C年代測定結果

資料番号	資料名	出所	縦、横	処理した鉄量	炭素回収量	推定炭素含有率	δ13C	14C年代	推定暦年代	Lab.code#
				(mg)	(mgC)	(%)	(‰)	(years BP)	(IntCal13による，2σの範囲)(可能性の確率)	(NUTA2-)
MURO-1	新鉾、大	牟呂八幡神社	353X40mm2	401.16	1.18	0.29	-23.1±1.0	871±28	cal AD1045-1095 (17.1%) cal AD1119-1225 (76.8%) cal AD1232-1244 (1.5%)	23343
MURO-2-1	新鉾、小	牟呂八幡神社	217x37mm2	434.39	0.76	0.17	-30.1±1.0	433±28	cal AD1421-1492 (93.4%) cal AD1602-1610 (2.0%)	
MURO-2-2				621.23	0.67	0.11	-34.3±1.0	587±30	cal AD1298-1370 (66.8%) cal AD1380-1414 (28.6%)	23345
MURO-3	旧鉾、大	牟呂八幡神社	340x40mm2	397.04	0.41	0.10	-20.1±1.0	739±23	cal AD1228-1231 (0.7%) cal AD1245-1290 (94.7%)	23346
				704.20	0.93	0.13				
MURO-4	旧鉾、小	牟呂八幡神社	204x34mm2	492.36	1.53	0.31	-20.3±1.0	660±23	cal AD1280-1318 (47.4%) cal AD1353-1390 (48.0%)	23347

*) $\delta^{13}C=[(^{13}C/^{12}C)_{sample}/(^{13}C/^{12}C)_{PDB}-1.0]\times1000$ (‰)，ここで，PDBはPee Dee Belemniteの略記で炭酸カルシウムからなる矢石類の化石であり，13C/12C比の標準体として用いられる．このδ13Cは，AMSによって測定された値であり，誤差はほぼ±1‰と見積もられる

5　今後の課題

(1)　まず、鉾を大きく新旧に分ける根拠となった 2 つの文書と 4 本の鉾を対比して、個々の鉾を特定する作業が急務である。この再確認が年代測定結果分析の大前提となるからである。2 つの文書は、それぞれ豊橋市美術博物館と豊橋市中央図書館に収蔵されており、これらの原本閲覧および原寸大のコピー取得のための申請理由を明確にしてから実施していく予定である。

(2)　牟呂村由来（大小は不明）、年中神事式（大小は不明）、そして羽田野敬雄が写し取った鉾は大小 2 本である。しかし、4 本の鉾が江戸時代をはるかに超えた平安末期～鎌倉時代～室町初期に製鉄されたことが判明した。すると、羽田野敬雄が写し取ったのは、大小 2 セット（大きい鉾 2 本ではない）のうちの 1 セットであったことになる。なぜ 1 セットだけだったのか疑問が残る。この当時、神輿渡御に使用された鉾は間違いなく 2 本であり、4 本すべて使われたのではない。この測定結果と文書の記述を対峙させ追究する必要がある。

(3)　鉾の大小について。やはり、大小セットで作られた可能性は否定できない。新鉾小が鎌倉後期から室町前期に制作されたとして、何故、「大」ではなく「小」を製作したのか。また、そもそも同じ大きさでなく、大小の形で製作された意図は何であったのか。また、旧鉾は大小 2 本セットで製作された可能性が残る。現在神幸祭神輿渡御では神輿の四隅に鉾所役が配置されている。いつから 4 本が祭具として使用されるようになったかを記す文書は見つかっていない。

(4)　相撲神事の起源追究を進めてきたが、今回、最先端の科学のメスが入ったことにより、堂々巡りの議論からの突破口となり、新たな展開を可能にしたことは間違いない。

謝辞　　鉾の年代測定にあたり、懇切丁寧なご指導をいただいた名古屋大学宇宙地球環境研究所年代測定研究部の中村俊夫先生、並びに、この測定の関係者の方々に深く謝意を表します。

引用・参考文献

中村俊夫（2015）豊橋市牟呂町牟呂八幡宮所蔵の鉄鉾の 14C 年代　名古屋大学年代測定総合研究センター

中村俊夫（2015）豊橋市牟呂町牟呂八幡宮所蔵の鉄鉾の放射性炭素年代測定　名古屋大学宇宙地球環境研究所年代測定研究部

羽田野敬雄（江戸後期）三河国内神明名帳（写本）　羽田八幡宮文庫（豊橋市中央図書館収蔵）

羽田野敬雄（明治初期）三河国官社私考（下）　羽田八幡宮文庫（豊橋市中央図書館収蔵）

杉本彦十郎（1817）牟呂村由来　杉本家文書（個人所有）

森田光尋（1872）年中神事式（**明治四年未五月社家被廃止年中神事式社地略図反別作徳巨細取調書類）森田家文書 E-37（豊橋市美術博物館　寄託）**

作者不詳（1602）牟呂邑八幡坐覚　杉本家文書（個人所有）

森田光尋（1851）八幡宮祭礼宮坐帳　森田家文書 E－1（豊橋市美術博物館　寄託）

羽田野敬雄（江戸後期）2 本の鉾を写し取った文書　羽田八幡宮文庫（豊橋市中央図書館収蔵

森田光文（明治初期）　４本の鉾を写し取った文書　森田家文書（豊橋市美術博物館　寄託）
森田光文（明治初期）　森田光文のメモ書き（コピー）　　岡田昭尚氏所蔵（個人所有）

日本語の要約

相撲神事とかかわりの深い４本の鉄鉾の１４C 年代測定をした。測定結果はこれらが平安末期～鎌倉時代～室町初期にかけて製鉄され、制作されたものであることがわかった。関係文書との照合から、１本の鉾が鎌倉初期には存在していた可能性が高まった。同時に相撲神事も存在したことが推定できるようになり、今後の相撲神事の調査研究の新たな展開が可能となった。。